

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ハナマルキ、サンシャインジュース、“液体塩こうじ”使用のビーガンスープ」
- 2) 「専門家が電話でワインを提案、“Amazonソムリエ”開始」
- 3) 「日通、東京の倉庫ハラル認証 イスラム圏輸出に弾み」
- 4) 「日本初の認知症保険 家族が一時金受け取れる仕組み検討も」

1) 「ハナマルキ、サンシャインジュース、“液体塩こうじ”使用のビーガンスープ」

ハナマルキとサンシャインジュースは2月16日、「液体塩こうじ」を使ったビーガンスープを共同開発し、サンシャインジュース店舗とオンラインショップで発売する。サンシャインジュースは、2014年1月に日本初のコールドプレスジュース専門店としてスタート。素材と製法にこだわったクオリティが高いコールドプレスジュースとビーガンスープを提供している。

今回共同開発したスープは2種。いずれも腸内環境を整え、デトックス、便秘解消や美肌、疲労回復効果が期待できる、心も身体も温まる美味しいスープだという。普段の食事の置き換えや食卓のプラスワんに、または話題のスープレイズとしても楽しめるという。

「塩こうじデトックス」は、腸内美化、デトックスにお勧めのケール、ブロッコリー、ほうれん草などのグリーン野菜、ゴボウを使ったビーガンスープ。塩こうじは「水溶性食物繊維」とあわせて摂ると、その力がUPすると言われている。価格は1180円（税込）。

「塩こうじビーツトマト」は、アンチエイジング、美肌にお勧めのビーツをメインに、トマトの酸味、生姜、唐辛子などのスパイスが効いたビーガンスープ。塩こうじは植物性乳酸菌とあわせて身体の代謝を高めてくれるとされるビタミンB群も豊富、同じく代謝や発汗を促進してくれる生姜や唐辛子と併せて摂ることでその効果も倍増が期待されるという。価格は、1080円（税込）。

オンラインショップでの販売は、塩こうじデトックス、塩こうじビーツトマト、カボチャ生姜味噌が各2個ずつ（合計6個）がセットとなった「発酵スープセット（6000円税込）」での販売となる。

サンシャインジュースの店舗は東京にしかないがパッケージも奇抜でおもしろい。健康にいいとなると一度は飲んでみたいが、味が未知数で値段も少し高いということもあり手が出しにくいと感じる方も多いただろう。対面販売や実演販売を行うスーパーも増えているのでぜひ取り入れてほしい。

2) 「専門家が電話でワインを提案、“Amazonソムリエ”開始」

Amazon.co.jpは4日、「Amazonお酒ストア」内の「Amazonワインストア」において、専門家がワインを選んでくれる新サービス「Amazonソムリエ」の提供を開始した。

Amazonでは、2014年4月に「お酒ストア」を開設し、酒類取扱いをスタート。現在、合計15万種以上を取り揃えている。2015年8月からは、ワインに特化した「定温倉庫」の稼働を開始するとともに、「保冷お届けサービス」を開始している。2015年10月時点で、ワインの取扱いは8000点以上となっている。

今回新たにスタートした「Amazonソムリエ」では、ベテランワインアドバイザーやソムリエなど、ワインの専門家が、無料で個別アドバイスを行う。相談には電話で直接対応し、シチュエーションや食材に細かく応じたアドバイスを受けることができる。

ワイン商品ページにて、「次の画面で電話番号を入力いただくと、お客様のお電話がなりません」のリンクをクリックし、電話番号を入力することで相談可能。電話終了後、提案ワインの情報は、メールでも送られてくる。対応時間は月曜日から金曜日12:00-17:00（祝祭日除く）。日本語のみ対応で、Amazon FB Japanが販売・発送する商品に限る。

「Amazonソムリエ」サービスリーダーは、東急百貨店の仕入販売担当やフレンチレストラン「タストヴァン青山」シェフソムリエなどの経験を持つ原深雪氏が務める。

こちらから電話をかけるのではなく電話がかかってくるという点、提案後にメールでリストが送られてくるので、話を聞いた後にもう一度吟味できる点が良いと思った。他の企業でもチャットでリアルタイムに商品について教えてくれるサービスなどもあるが、このようなサービスが進めばリアル店舗との境界がだんだんなくなっていく。業種業態にこだわらず、淘汰されないような取り組みがますます求められるだろう。

3) 「日通、東京の倉庫ハラル認証 イスラム圏輸出に弾み」

日本通運は東京都内の拠点でイスラム教の戒律に沿った「ハラル」対応の倉庫業務の認証を取得した。イスラム圏ではハラル対応の食品のニーズが高く、物流でも戒律に沿った認証を取得する動きが広がっている。日本食材の取り扱い増につなげたい考えた。

東京食品ターミナル事業所（東京・大田）の倉庫内のスペースや業務手順を対象に、日本ハラル協会（大阪市）から1月下旬に認証を受けた。イスラム教で禁じられている豚肉やアルコール由来の成分を含む食品と一緒に保管しない体制が評価された。専用の台車を使ったトラック輸送でも認証を申請している。

日通のマレーシア子会社は2014年12月に政府機関のイスラム開発局（JAKIM）から認証を取得済み。日本とマレーシア双方で認証を取得している物流企業は珍しい。日本の食材をイスラム圏までハラル対応で一貫輸送できることを売り物に需要を開拓する。

食事面だけでなく保管まで制限されているとは知らなかった。今はまだ日本での対応が薄いイスラム教でも、5年10年後には商業施設に礼拝所があって当たり前前の時代がくるかもしれない。現在スーパーマーケットでハラルに対応しているところのごくわずかだ。観光客が訪れにくい地域のスーパーも、大手と同じサービス展開は難しくても違った面からサポートできればもっと利用しやすくなるのではと感じた。

4) 「日本初の認知症保険 家族が一時金受け取れる仕組み検討も」

予備群も含めれば日本に800万人いるといわれる認知症患者。高齢化に伴いその数は増え続ける上に、根治する方法は見つかっていない。介護する家族にも大きな負担がかかる。そうした中で、日本初の「認知症保険」が発売されるという。

団塊の世代が75歳以上になる9年後には、高齢者の5人に1人は認知症患者になっているという、「2025年問題」が懸念され、各業界がその問題に向き合うとともに商機を探っている。生活マネー相談室代表・ハツ井慶子氏はこういう。

「これからは保険業界にも認知症を意識した商品開発が求められるのではないかと考えています」

そうしたなかで、太陽生命が業界初となる「認知症保険」を発売すると報じられた。朝日新聞1月23日付朝刊は次のように伝えている。

〈認知症になると給付金が出る保険を、太陽生命保険が3月にも発売する〉

太陽生命の広報担当者は「発売予定ではあるが、詳細は未定」と答えるのみだったが、同社関係者からは「加入者が認知症の診断を受け、一定期間同じ症状が続いた場合、家族が一時金を受け取れる仕組みを検討している」との声が聞こえてきた。

「認知症とカネ」は多くの日本人が今後避けて通れなくなる大問題だ。介護ジャーナリスト・太田差恵子氏の指摘。

「認知症になった家族を病院に連れて行くとなれば、電車やバスでは難しく、タクシーや自家用車を使わなければならなくなる。独居の場合は見守りのために家族が通うことも必要になってくる。交通費はかさむうえに、ヘルパー代なども公的介護保険だけではカバーしきれない部分が出てくるでしょう」

介護のために家族が仕事を休んだり、辞めたりしなくてはならないケースも想定される。経済ジャーナリスト・荻原博子氏がいう。「厚生労働省の研究班と慶大医学部が共同で発表した『認知症の社会的費用と推計』（2015年5月発表）によれば、認知症患者を抱える家族は、本来仕事に充てられる時間を介護に使うことで、年間382万円を損していると推計されています」

認知症患者を家族にもつ方の負担軽減にはなるだろうが、保険金詐欺の心配は普通の保険に比べて大きいと想定される。受取人の認定基準をどのように設けるかなど、その点をどのようにカバーしていくのかが気になるところだ。